

糖尿病の疑い 1870万人

厚労省 06年調査 4年で250万人増える

糖尿病が強く疑われる人と可能性が否定できない「予備軍」を合わせた計約千八百七十万人と推計されることが三十日、厚生労働省の「二〇〇六年国民健康・栄養調査」で分かった。成人の五・六人に一人の計算で、〇二年の調査より約二百五十万人（一五・四％）増加した。同省の担当者は「高齢化や食習慣・生活習慣の変化が関係している」とみている。

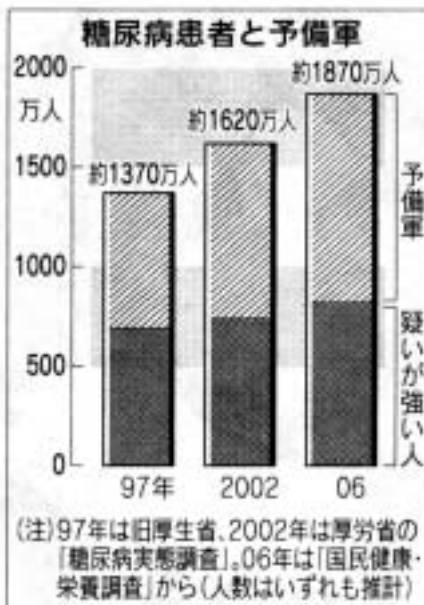
〇六年国民生活基礎調査の結果を分析した。調査から無作為抽出した約一万八千人が血液検査や運動調査などを実際

に受けて、厚労省は血液中の「ヘモグロビンA1c」の値を採

用。A1cが六・一％以上を「糖尿病が強く疑われる」、五・六％以上六・一％未満を「糖尿病の可能性を否定できない」と規定した。実際の医療現場ではほかの検査や症状なども合わせて糖尿病と診断。厚労省の別の調査（〇五年）では、治療を受けている患者だけで約二百四十六万九千人と推計される。A1cの測定をできたのは二十一～二十九歳では男

約四千三百人のうち、六・一％以上は全体の九・八％に上り、二十歳以上の人口（約一億四百万人）に掛け合わせると、糖尿病が強く疑われる人は約八百二十万人になった。五・六％以上六・一％未満は一・九％で、可能性を否定できない人は約千五百万人。合わせて約千八百七十万人で、〇二年の約千六百二十万人、一九九七年の約千三百七十万人と比べ、年を追うごとに増え続けている。糖尿病の疑いが強い人

女ともに〇％だが、四十一～四十九歳では男性四・八％、女性二・二％。七十歳以上では男性の二・一％、女性の二・五・三％だった。調査では運動の実態について、前回までより詳しく調べた。男性の二十～二十九歳までと七十歳以上、女性の十五～二十九歳と七十歳以上では「運動をしていないし、しようとも考えていない」という人が三割以上を占めた。



二〇〇六年国民健康・栄養調査によると、メタボリックシンドローム(内臓脂肪症候群)の「該当者」と予備軍は計約千九百四十万人(推計)だった。四十一～七十四歳では男性のほぼ二人に一人、女性の五人に一人がメタボ該当者か予備軍

中高年の男性 半数がメタボ 全体では1940万人

だった。〇四年は約千九百六十万人、〇五年は約千九百四十万人。腹部が男性八五センチ以上、女性九〇センチ以上で、血中脂質、血圧、血糖のうち、二つが異常値なら「該当者」、一つなら「予備軍」とした。